

韓国の野鳥、家きんで 高病原性鳥インフルエンザ発生



【野鳥での発生について】

10月26日に忠清南道で捕獲されたオシドリから H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザが確認されました（全羅北道でも H5 亜型のウイルスが確認されていますが、詳細は確認中）。

野鳥での確認は 2021 年 3 月 30 日以来 7 か月ぶりです。

11月4日には全羅北道でも 1 例確認されています。

また、9月以降、野鳥の糞便から H5 亜型低病原性鳥インフルエンザウイルスの検出が複数例確認されています。



【飼養鶏での発生について】

11月9日に忠清北道のウズラ農場、肉用アヒル農場で発生。ウズラ農場は、H5N1 亜型高病原性鳥インフルエンザが確認されました（肉用アヒル農場の詳細は確認中）。

アジア、欧州等においては、本病の野鳥及び家きんにおける感染が継続的に確認されています。我が国へ飛来する渡り鳥が本病のウイルスを保有する可能性は高く、今シーズンにおいても引き続き厳重な警戒が必要です。